

I 教育委員会の事務点検・評価制度の概要(報告書 P1・2)

- 1 対象年度 令和2年度
- 2 法令上の根拠 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条
- 3 評価方法 教育委員会の権限に属する事項について、教育委員会が自らの事務の適切な執行について確認するとともに、点検・評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図っている。  
 ※評価委員 学校教育分野：小橋 暁子(こばし さとこ)氏 千葉大学教育学部准教授 専門：造形教育学
- 4 重点的に評価する事業等【令和2年度の新規・拡充事業】※( )は評価委員が視察・ヒアリング
  - ・専科指導のための非常勤講師の配置(千葉市立検見川小学校)
  - ・スクールカウンセラー活用(千葉市立桜木小学校)

II 教育委員会の活動状況(報告書 P3・4)

- 1 教育委員会会議を14回開催し、99件の議決を行った。
- 2 各種イベントや研修会、会議等に出席したほか、ホームページや教育だよりを活用した広報活動や教員を目指す大学生との意見交換などを実施した。

III 点検・評価の結果(報告書 P5~P69)

1 教育委員会による自己評価

「第2次千葉市学校教育推進計画に基づき、各施策を実施しているため、本計画の進捗状況を評価することにより、点検・評価を行った。また、令和2年度の新規・拡充事業のうち2つの事業について、重点的に評価を行った。

(1) 全体の評価について

学校教育分野	54	成果指標				108	アクションプラン			
		◎	○	×	-		達成	順調	遅れ	休止
		2	2	10	40	24	67	12	5	

区分	◎	○	×	-	達成	順調	遅れ	休止
	最終目標値(R3目標値)以上のもの	「R2末実績値とH27末現状値の差」が「最終目標値(R3末目標値)とH27末現状値の差」に対し80%以上であるもの	「R2末実績値とH27末現状値の差」が「最終目標値(R3末目標値)とH27末現状値の差」に対し80%未満であるもの	達成率で評価しない(できない)もの	最終目標(R3目標)以上のもの	おおむね順調に進捗しているもの	進捗状況に遅れが出ているもの	事業を休止したもの

新型コロナウイルス感染拡大の影響があるものの、昨年度と同様、アクションプランの進捗状況は達成・順調の項目が多い一方で、成果指標の達成状況は◎・○の項目は少なく、実施している取組が成果として表れていない傾向が見られる。成果指標の妥当性、成果指標とアクションプランとの整合性、今後も続くことが予想されるコロナ禍での取組等を含め、より効果の高い事業を実施する必要がある。

(2) 重点的に評価する事業等について

ア 専科指導のための非常勤講師の配置 (報告書 P46・47)

専門性の高い指導を実施するとともに、担任教員が児童と向き合う時間を確保するため、小学校に専科指導のための非常勤講師を増員し、75名配置した。これまでは音楽の講師を配置していたが、令和2年度からは新たに図工・家庭・体育の講師を配置した。

イ スクールカウンセラー活用 (報告書 P54・55)

小学校大規模校等43校について、スクールカウンセラーの配置時間を週3時間から4時間に拡充し、児童の心のケアをすることで、不登校やいじめなどの未然防止や早期発見、早期解決を図った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校再開後において、様々な不安やストレスを抱える児童生徒に丁寧寄り添うために、スクールカウンセラーの配置拡充を行い、きめ細かに対応する体制を整えた。

2 評価委員による評価

全体について(総括的所見)

- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため学校休校や夏季休暇の短縮等もあったが、学校は子どもたちの育ちに多様な役割を担っていることを改めて認識されたともいえる。
- ・児童生徒を取り巻く課題は多様化している。専門的な知見からの対応や質の向上のためにも、教職員への支援が一層求められるだろう。

専科指導のための非常勤講師の配置について

- ・専門性が生かされる図工等の専科非常勤講師を配置することにより、きめ細やかな指導が行われ、児童が意欲的に活動していること、また校内での各教員の授業担当コマ数が軽減されていることを確認した。
- ・今後の配置継続や実際の運用面の充実として、専科教員と他教職員との児童生徒の理解や個別の指導方法を共有する時間の確保が重要になるだろう。それは質の向上と児童の実態をふまえた指導にもつながる。

スクールカウンセラー活用について

- ・スクールカウンセラーは児童生徒と教員間の関係をつなげたり、継続してかわることで教員、児童生徒、保護者らの不安感を除いたり、児童生徒自身の相談するスキル向上にもつながることも見え、学校運営にとってなくてはならない役割を担っている。またスクールカウンセラーが入ることで問題の早期発見や掘り起こしにつながることもあり、予防の観点からも重視すべきことであるといえる。
- ・課題としては、スクールカウンセラーの勤務時間の制限もあり、教職員間での打ち合わせの難しさが挙げられる。校内での情報共有の方法など好事例を市内学校間で共有できるようにしていくことも全体の質を高める一助になるのではないだろうか。